

- 憲法および教育に関する諸法規
○学習指導要領
○東京都 教育目標
○小平市 教育目標

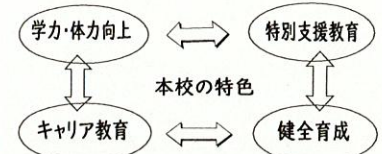
学校教育目標
豊かな心を養い 学力・体力の向上を目指す
未来へはばたく人物を育成する

- 1 心身ともに健康で 自らを鍛え 努力する人
- 2 進んで学び 社会のために尽くす人
- 3 認め合い 支え合う心優しい人

最重要課題
・生きて働く知識・技能の習得
・未知の状況でも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
・学びを人生や社会に生かそうとする
・学びに向かう力・人間性等の涵養
○豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる生徒の育成

学校経営方針 ～人間尊重の精神に徹し情操豊かで実践力のある人物を育成する～

- ・すべての子どもに生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識と技能を習得させる
- ・授業改善プランを活用して、計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを生かした指導
- ・小学校と連携し中学校で必要な基礎的・基本的事項の定着に努め、習熟度別少人数学習指導等の指導方法の工夫・改善と実践を図る
- ・特別支援教育の視点にたった環境・授業づくりを目指し、わかる授業を推進する
- ・家庭と協力しながら、生徒が自ら計画的に家庭学習に取り組めるよう積極的に指導する
- ・情報教育を体系的に位置づけ、情報化に対応した指導とICT機器を活用した授業改善



各教科の指導の重点

- ・「授業改善推進プラン」に基づき、個に応じた指導法（少人数授業・TT 他）を生かし、個に応じたきめ細かな指導を行う
- ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る
- ・言語活動の充実を図るため、「読む」「書く」「聞く」「話す」を意識した授業を組み立てる
- ・話し合い活動はもちろん、ICT 機器の活用などを通して、意見を交流する場面を増やし、他者の意見を広く聞き、理解を深める
- ・生徒の授業評価等を活用し、指導の方法を工夫・改善する
- ・HP を通して授業の様子を広く紹介し、家庭や地域社会との連携を図る

本校における「確かな学力」

本校では学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、自ら学び自ら考える力を育成する。

学習に興味や関心をもつ、疑問に思う、目的が明確になるなどによって「学ぼうとする力」が獲得される。そして、自らやってみる、練習する、課題を自分で考え工夫する、などによって「学びとる力」が獲得される。さらに、分かった、できた、完成した、解決したという状況に至るとき、「学んで得た力」が形成される。「学んで得た力」に含まれる達成感や成し遂げ感は、さらに次の問題解決への意欲（学ぼうとする力）を引き出すことができる。これらの活動を繰り返すことにより、「確かな学力」並びに「主体的に学習に取り組む生徒」が形成されていくと考えられる。

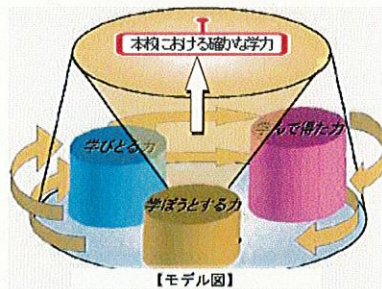
さらに新しい学習サイクルである「自分で考える」→「自分の考えを授業で確認する」→「理解を深める」自主学習を推進する。

道徳教育の指導の重点

- ・心身の健康増進のため、望ましい生活習慣や食習慣を習得させ、理想や目標を目指し粘り強く積極的に取り組む態度を養う
- ・勤労と奉仕の精神に基づく協調性と自主性のある人間を育て、人間としてよりよい生き方について考える力を育てる
- ・道徳教育推進教師を中心に、年間指導・評価計画に基づき、毎時間の指導や生活の中で道徳の実践力を高める
- ・道徳の授業の様子を保護者会等や HP を通して広く紹介し、家庭や地域社会との連携を推進する
- ・生命の尊さを理解できるように、かけがえのない自他の生命を尊重する心を育てる

総合的な学習の指導の重点

- ・自ら設定した課題を解決するために、調べ学習や体験学習、発表会等の活動や探求活動を通して、自ら考え、自ら課題を見付け、解決する力、豊かな表現力等を身に付け、一連の学習活動をとらえて、学び方やものの考え方を身に付け、主体的に生きる力の育成を図る



特別活動の指導の重点

- ・自主的、実践的な活動を通して個性を伸ばし、自主性、創造性を高めるとともに、目的に向かい協力してより遂げる達成感を体験し、自己を生かす能力と望ましい人間関係をつくる力の育成を図る
- ・心身の健全な発達と、自他の安全を確保する能力を高め、秩序と調和のとれた集団や社会の一員としての在り方について考える力を育てる

進路指導の重点

- ・キャリア教育の系統的指導を目指し、新入生体験入学や出前授業などを充実させ、連携小学校との円滑な接続を図る
- ・キャリア教育を通して、望ましい勤労観・職業観を育み、よりよい生き方を探求する

その他の指導の重点

- ・特別支援学級との交流を推進し、「相手を理解し、思いやり、支える」心と態度を育てる
- ・読書マラソン等の取り組みを通して、日常的に読書に親しみ、読書の習慣化を図る
- ・チームティーチングによる指導体制で生徒の体力・精神力の向上に取り組む

生活指導の重点

- ・自主的、自発的な活動を通して集団への所属感を高め、協力、親和、友情などの意義を実践の中で体得させ、好ましい人間関係を育てるとともに、規範意識を醸成する
- ・深い生徒理解に基づいて、基本的生活習慣の育成や、個に応じた指導の工夫を図る
- ・特別支援教育推進委員会を中心に、学校生活支援シート等を作成し、特別支援教育を推進する
- ・学校サポートチーム等を活用し、相談・助言等を通じ地域ぐるみで生徒の健全な育成を進めていく
- ・いじめ防止授業、ふれあい月間を通して、自己や他者の生命を尊重する態度を育成する
- ・教育相談活動を組織的にを行い、問題行動の早期発見・早期対応を目指す

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・話し合い活動や ICT 機器の活用で、意見交流の場面を増やし、他者の意見を広く聞き、理解を深めるとともに生徒の自己有用感を育み、学習意欲の向上を図る ・重点的な指導や繰り返し指導などの指導計画やチームティーチングや習熟度別少人数指導などの指導体制を充実させる ・ICT 機器を活用した授業を展開し、自主学習を推進する	・授業時数の管理を適切に行い、授業時数の確保に努める ・校外学習等の行事を適切な時期に配置し生活のリズムを適正にする ・感染症などの社会情勢に応じて、学習支援ツールを使用し、学習の遅延を減らし、生徒の学習の機会を保障する	・教員の指導力・授業力の向上を図るための校内研修会を毎学期、実施する ・教科等研究会等の成果を校内に還元する ・特別支援教育に対する理解を深めるために、巡回相談員と連携を図る	・形成性評価・総括的評価等を適切に実施し、指導計画等の改善に役立てる ・生徒による授業評価を適切に実施し、その変容を確かめ、授業の改善に資する ・授業改善につながる学校関係者評価を実施する	・保護者会や三者面談において各教科指導計画・評価計画等の説明を行う ・面談の機会を全校で設定し、生徒や保護者との相互理解を深める ・地域の人材や学生ボランティアを積極的に導入し、学習支援を充実する

令和7年度 授業改善プラン

教科名 国語科
小平市立花小金井南中学校

1. 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 真面目かつ前向きに授業に取り組んでおり、発言も活発である。ただし、クラスによっては発言する生徒としない生徒に二分化されてしまっているクラスもある。 (2) 読解力があり、本文に書かれた情報はよく読み取ることができる。まだ行間の読みまで深くとらえられないことが多いが、問いを与えると真摯に読み解こうとする。 (3) グループでの話し合いでは活発に意見を出したり、他者の考え聞こうとしたりする姿勢がある。
	指導面	(1) 答えやすい問いではランダムに指名、難しい問いでは挙手制か、話し合い後にグループの代表者を指名など、場合に応じて指名の方法を使い分け、発言しやすい授業、発言によって進む授業を心がけている。 (2) まずは表層的な情報の読み取り、次に行間などの深層的な読解を行うことで、読解力の向上を図っている。 (3) 一単元に一回以上は話し合い活動を取り入れ、互いに意見を出し合い、それを自分の考えの構築に生かせるようにしている。
2年	学習面	(1) 授業に真面目に取り組んでおり、グループでの話し合い活動で他の意見を聞きながら自分の考えを深め発表することができる。 (2) 文章の主題の読み取りに慣れ、平易な読解は十分できる生徒が多い反面、行間を読んだり想像して読んだりすることに苦手意識をもった生徒もいる。 (3) 作品に対する自分の考えをわかりやすい表現を使って相手を納得させるように述べられるようになってきた。
	指導面	(1) 授業の中に4人組によるグループ活動を取り入れて、積極的に授業に関わる機会を設けている。 (2) 画像や映像を補助教材とし、教科書に沿ったワークシートを作成して基本読みを行い、グループや全体での話し合い活動を通して主題に迫る授業を展開している。 (3) 定期的に学習のまとめに文章を書く学習を取り入れたり、音読テストや暗唱テスト、漢字テストを行って書くことや読むこと、漢字に対する抵抗感をなくし、継続的、自主的な学習を促している。
3年	学習面	(1) 進んで漢字テストや音読練習に取り組む、授業にも前向きである。 (2) グループの話し合い活動を通し積極的に発言し、他の意見を参考にして自分の考えを深めることができる。 (3) 意見や考えを自分の言葉で、発表することが苦手な生徒が少なくない。
	指導面	(1) 群読や音読活動、グループでの話し合いを取り入れることで読解力の向上が見られたため継続していく。 (2) 自分の意見を書くときのポイントを身に付け、自分に引きつけて考える習慣を養えるように、読解段階からこまめに書く活動を取り入れたり、参考になる文章を紹介したりしている。

2. 授業改善プラン		
1年	学習面	(1) 漢字テストや授業内での音読を定期的に取り入れ、継続的に学習に取り組めるように促す。 (2) 書くことに力を入れ、自分がまとめたものや書いた作品を互いに読み合い、評価する活動を取り入れる。
	指導面	(1) 自分で必要な学習を考えて取り組む漢字学習ノートを活用し、提出・評価し、良い使い方を共有することで、自分で進める学習の定着を図る。また、音読カードを用いて、各自で音読練習を進めるように指導する。 (2) ロイロノートなどデジタル機器を活用し、自分の意見や作った作品などを互いに共有する。また、評価基準を示すことで、それらを客観的に評価できるようにする。
2年	学習面	(1) 話し合い活動で他者の意見を聞こうとする姿勢を養い、積極的に発言することで自分の読解や考え方を深めていけるようにグループ活動に取り組ませる。めあてやねらいを持たせる。 (2) 発表活動、話し合い活動、音読活動を通し、他者の長所に倣い、よりよい言語活動を切り拓く。
	指導面	(1) 話し合い活動や発表活動で他者の意見や表現を資料・メモなどを用意し、それらを参考にして自分の考え方を深めさせる。(学ぶは真似ぶ) またグループ活動にめあてやねらいを明確に設定して取り組ませる。 (2) ICTを活用し、知りたいときに知りたい資料を提示したり、学習の流れがスライドで把握できるような視覚的教材を準備する。
3年	学習面	(1) 要旨や主題について自分の言葉で書いたり、話したりすることができるようにする。(基本は音読による内容理解。作品の読み取りそれらに対する意見、感想をもつこと) →発表活動に抵抗感をなくすため少人数での意見交換を頻繁に取り入れる。 (2) さらに深化した自主的な読み取り(想像力)と表現(創造力)ができるようにする。
	指導面	(1) 書く活動の前後にグループでの交流タイムを設け、他人の意見や考えを参考にして自分の考えを深めながら文章を書く活動を習慣化する。 (2) 興味のわく、やってみたいと思えるような教材や学習方法を取り入れる(群読発表、物語、俳句などの創作、劇化など)

3. 授業改善プランの評価(成果の確認)
(1) 定期テストや小テストの実施 (2) 各学期ごとの観点別学習状況の評価と比較 (3) 生徒による自己評価(理解の程度など)

授業改善推進プラン

教科名: 社会科

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 社会を苦手としている生徒もみられるが、興味・関心をもって授業に取り組んでいる生徒が多い。 (2) 社会的事象に関して、その背景や影響等を考える思考力に課題がある。 (3) 複数の資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。
	指導面	(1) 単元ごとに単元テストを実施し、基本的な知識が定着できるようにしている。 (2) 社会的事象に対して、様々な視点で考察するように促している。 (3) 資料を読み取るポイントを指示しながら、より多くの資料の提示、読み取る時間を設けている。
2年	学習面	(1) 社会、特に歴史を苦手としている生徒がいるが、主体的に取り組んでいる生徒が多い。 (2) 複数の資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。 (3) 考えたことを簡潔にまとめ、表現する力に課題がある。
	指導面	(1) 単元ごとに単元テストを実施し、基本的な知識が定着できるようにしている。 (2) 毎時間、資料を読み取る場面を設定し、読み取るポイントを指示しながら取り組んでいる。 (3) 単元シートを活用し、自分の考えなどを整理させ、思考力・表現力の向上を図っている。
3年	学習面	(1) 授業プリントへは意欲的に取り組んでおり、基本的な知識は定着している。 (2) 資料の読み取りに意欲的な生徒とそうではない生徒で二極化している。 (3) 小グループでの話し合いには概ね意欲的に取り組む一方、内容の深まりには生徒間で差がある。
	指導面	(1) 毎時間、授業プリントを作成し、基本的な知識の定着を図っている。 (2) 毎時間、スライドで資料を提示し、資料から読み取る思考力の向上を図っている。 (3) 定期的に小グループでの話し合いやジグソー学習を行い、主体的に学ぶ力を育てている。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 知識を定着させるために、学んだことを表現する活動を増やす。 (2) 映像資料などを教科書の内容に関連づけ、様々な立場から考えるようにする。 (3) 授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	(1) 重要事項などを生徒に伝えた上で単元テストを実施し、基本的な知識の定着を図る。 (2) グループ学習などを活用し、他者の意見を取り入れ、自身の意見を再構成する活動を増やす。 (3) 多面的・多角的なものの見方ができるように、資料を厳選した上で複数提示する。
2年	学習面	(1) 学習者用端末、デジタル教材を効果的に活用していく。 (2) 資料を読み取るだけでなく、そうなった背景なども考えていく。 (3) 授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	(1) 重要事項などを生徒に伝えた上で単元テストを実施し、基本的な知識の定着を図る。 (2) グループ活動やペア学習を効果的にを行い、資料の読み取りや他者の意見も聞き、思考力を深めさせる。 (3) 単元シートなど、社会的な「見方・考え方」を働かせられるような問いを設定する。
3年	学習面	(1) 学習者用端末、デジタル教材を効果的に活用し、さらなる知識の定着を図る。 (2) 資料から読み取ったことを話し合い、他者の意見を聞いて自分の考えを再構築する。 (3) 授業プリントや教科書、様々な資料と関連づけ、多面的・多角的に事象をとらえるようにする。
	指導面	(1) 授業プリントの中で、社会的な「見方・考え方」を働かせられるような問いを設定する。 (2) 複数の資料を提示するなどして、様々な視点から社会的事象を考えられるような場面を設定する。 (3) 話し合い活動の場面をより多く設定し、自身の考えを深め、また他者に伝える力をつけさせる。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1) 観点別学習状況の評価の前年度との比較	
(2) 定期テスト、小テスト、小プリント。	
(3) 授業アンケート、レポート、コンクール作文等。	
(4) 授業内容についての自己評価表。	

1 日常の学習状況・課題

1年	学習面	(1) 一部であるが計算力を中心とした、基礎学力の向上が課題である。 (2) 授業にも慣れ、積極的・意欲的に数学の学習に取り組む生徒が増えてきた。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒の補充学習を行い、学力向上を図っていく必要がある。 (2) 「思考力・判断力・表現力」を向上させる指導が必要である。
2年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきた。 (2) 「知識・技能」については、一定のレベルを保っている。これから「思考力・判断力・表現力」を中心に実力を高める指導が必要である。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒の学力向上を図っていく必要がある。 (2) 「思考力・判断力・表現力」の力を高めさせる指導が必要である。
3年	学習面	(1) 意欲的に学習に取り組む生徒が多い。 (2) 「知識・技能」については、一定のレベルを保っている。「思考力・判断力・表現力」が身に付く指導が必要である。
	指導面	(1) 生徒のさらなる学力向上が課題である。一部であるが基礎学力の向上が課題である (2) 「思考力・判断力・表現力」高めていく授業が必要である。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	(1) 繰り返し学習させることにより、基礎学力を身に付けさせる。それとともに達成感を感じ、より意欲を高める工夫を行っていく。 (2) 学習の定着状況等についての小テストややり直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、補充教室をするなど、個別の対応を行う。また、TT(チームティーチング)を生かし、学び合い学習を取り入れ、分かる生徒が苦手な生徒に教える場面を作り、様々な生徒が達成感を得られるようにする。 (2) 文章題を扱う時間を増やし、文章題作成についても授業に盛り込んでいく。また、問題に対するヒントなど設問を工夫し、考える時間をできるだけ確保する。
2年	学習面	(1) 反復練習をさせることにより、基礎学力を身に付けさせる。達成感を味わわせ、より意欲を高めていく。 (2) 学習の定着状況等について小テストややり直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、基礎学力補充課題を作成するなど、習熟度別少人数授業を生かして個別の対応を行う。 (2) 文章題応用問題を扱う時間を増やしていく。また、問題に対するヒントなど設問を工夫し、考える時間をできるだけ確保する。 (3) 既習事項を、身近な事象に活用する課題を取り上げ、自分の考えを発表する時間を作る。
3年	学習面	(1) 繰り返し学習と反復学習を状況に応じて取り入れることにより、基礎学力が定着し達成感を感じるにより意欲を高めていく。 (2) 学習の定着状況等についての小テストややり直しテストを行い学習の定着を行う。
	指導面	(1) 学力の定着に課題のある生徒に対する対策として、習熟度別少人数授業を生かして、計算力向上のため個別に対応する。 (2) 文章題などの発展的な問題を扱う時間を増やし、既習事項の活用の仕方を練習する。 また、問題に対してヒントとなる設問を入れて、じっくり考える時間や学び合い学習を行う時間を確保する。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1) 定期考査での学習結果の前年度との比較と成績下位層と上位層の生徒の変容
- (2) 観点別学習状況の評価の変容
- (3) 学期末・年度末に「生徒による授業評価」を実施

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題

一年生	学習面	(1)初めての期末テストではあったが、多くの生徒が計画的に学習に取り組み成果を収めることができた。	
		(2)生物に興味関心を持ち、ほとんどの生徒が授業に意欲をもって取り組むことができている。一方で、一部の生徒は家庭学習が習慣化しておらず、宿題の提出が困難な生徒もいる。	
		(3)生徒の半数近く、学習意欲はあっても学習の基盤となる語彙力が乏しく、文章の読解や表現する力に課題がある。	
	指導面	(1)各観察や小単元の事後学習の時間を確保し、個に応じた指導を行うことで、基礎基本の徹底を図っている。	
(2)生徒が科学の有用性を見出し、日常生活や実社会、他教科とリンクさせ、体系的に理解するよう工夫を図る。			
二年生	学習面	(1)積極的に取り組み、科学の見方、科学の考え方が身に付きつつある。たくさんの視野をもつことに興奮を覚え、楽しみながら学ぶことができている。習慣的にノート・課題づくりをつくることの大切さに気付き、ほぼすべての生徒が学びの蓄積をつくることに希望をもっている。学ぶ範囲の広がりや知識の量に対応できていくことが期待できる。	
		(2)授業内で取り組むことの大切さを感じ、家庭内の行動につなげていこうとする姿が見られる。	
	指導面	(1)伝え合う活動により、発信と受信、思考の再構築の芽が育ち始めている。思考する力の成長に伴い、自分一人で考察をつくることができるようになったため、共有し、他者の意見から価値のあるものを探す意欲が低下してきている。共有による世界の広がりを体感させる取り組みの機会を増やしていきたい。科学の知識が人によって発見されたものであることを感じさせ、ただあるのではなく人の営みの中、気づきの連続によって生まれたものであることを引き続き理解させる。	
三年生	学習面	(1)授業の課題に対して、自分なりの考えを持ち、人と意見交換をし、考えを再構築する活動を意欲的に行っている。	
		(2)自分の考えや理解したことなどを自分の言葉でノートにまとめ、次の授業に生かす積み重ねができている。	
		(3)復習確認テストの第1・2学年の範囲の正答率が高くなかった。定期テストの得点が上位と下位に分かれている。	
	指導面	(1)大部分の生徒が意欲的に取り組むことができる課題設定を概ね行うことができたため今後も工夫していく。	
		(2)演示実験や生徒実験をほぼ毎授業取入れ、実物から実感をもって学ぶ活動を続けていく。	
		(3)授業時間では演習に時間を割くことが難しく、定着に課題がある。復習の方法や学習計画立案を改善する。	

2 授業改善推進プラン

一年	学習	(1)生徒自ら基礎学力の定着を図るよう、ノートづくりや振り返りの点検をスモールステップで行い、家庭学習を促す。 (2)自由研究の個人発表や、課題解決を図るためのグループ活動を通して、生徒の語彙力や表現力の向上を図る。		
	指導	(1)個に応じた指導を継続して行い。基礎学力の定着、基礎操作に関する技能の力の向上を図っていく。 (2)生徒が主体的に考えるよう課題を設定し、グループ活動を通じた送受信を行うことで、知の再構築を図る。		
二年	学習	(1)ノートづくり、振り返り、メモリーツリーづくりを集中して継続的にできるように活動をしていく。 (2)家庭学習のきっかけをつくり、理科から他教科へ学びと気づきを広げていく活動を習慣として促していけるようにする。 (3)考える時間を確保し、情報共有を行う時間を確保し、アウトプットする機会をつくる。クラス全体に共有する機会をつくる。 (4)基礎的な知識が身につけていない生徒に対しては、語句を丁寧に学ぶ課題を設け、手応えをつけさせ、学ぶ習慣を作る。		
		指導	(1)考える時間と情報共有を行う時間を確保し、アウトプットする機会をつくる。クラス全体に共有する機会をつくる。 (2)基礎的な知識が身につけていない生徒に対しては、語句を丁寧に学ぶ課題を設け、手応えをつけさせ、学ぶ習慣を作る。 (3)学ぶ意味を理解し、ただ学ぶのではなく、『なぜ学ぶのか』を理解して学習を進めていく。 (4)単元ごとに自ら主体的に学びを体系的につくる機会を設ける。	
			学習	(1)意見をまとめる活動に意欲的に取り組めるようにする。課題提示や意見交換の際に集中して聞くことができるようにする。 (2)積みあがった理解を定期的に復習し、次の課題とのつながりを探すようにする。単元全体の法則性を意識する。 (3)第1・2学年の復習を繰り返して行う。定期テストに向けて、ワークだけでなく授業ノートや教科書を振り返る。
				指導

3 授業改善推進プランの評価（成果の確認）

- (1) 1,2年生は、授業評価や学力向上調査の結果より評価を行う。
- (2) 3年は復習確認テスト3回の実施とその結果を分析する。
- (3) 日常的指導の中での生徒の学習態度や課題に取り組む姿勢、教師の働きかけに於ける生徒の反応などを評価する。

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) どのクラスも学力向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2) 姿勢や発声に気をつけて、音楽を創り上げる意識がある。 (3) 「鑑賞」の学習への取り組みは、静かに落ち着いて鑑賞する態度が身についている。
	指導面	(1) 表現活動に必要な発声や楽器の奏法の基礎を身につけさせる。 (2) 表現の基礎的な知識・読譜力等を身につけさせる。
2年	学習面	(1) どのクラスも学力向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2) 自主的に考え、音楽を創り上げる意識がある。 (3) 「鑑賞」の学習への取り組みは、意欲的に鑑賞する態度が身についている。
	指導面	(1) 表現活動に必要な発声や楽器の奏法をしっかりと身につけさせる。 (2) 表現の基礎的な知識・読譜力等を身につけ、自ら考え表現する力をつける。
3年	学習面	(1) どのクラスも学力向上を目指し、意欲的に授業に取り組んでいる。 (2) バランス、ハーモニーなどを考えて、音楽を創り上げる意識がある。 (3) 「鑑賞」の学習への取り組みは、意欲的に鑑賞する態度が身についている。
	指導面	(1) 表現活動に必要な発声や楽器の奏法を身につけ、工夫して表現させる。 (2) 表現の基礎的な知識・読譜力等を身につけ、自ら考え意欲的に表現する力をつける。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 音楽表現をするために、姿勢や演奏の基礎を身につけさせる。 (2) 音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。
	指導面	(1) ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2) 課題の目標を明確に提示し、練習の仕方を具体的に指示する。 (3) 音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身につけられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表、話し合いをさせる。また、ICTを活用する。
2年	学習面	(1) 音楽表現をするために、自ら工夫して表現できるようにさせる。 (2) 音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。 (3) リーダーを中心に、課題を見つけ練習できるようにさせる。
	指導面	(1) ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2) 課題の目標を明確に提示し、練習方法を工夫させる。 (3) 音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身につけられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表や話し合いの機会を多くする。また、ICTを活用する。
3年	学習面	(1) 音楽表現をするために、豊かな表現力を身につけさせる。 (2) 音符や楽譜上に記載されている記号を表現に活用できるように意識させる。 (3) リーダーを中心に、お互いに高めあえるような練習をさせる。
	指導面	(1) ホワイトボード、プロジェクター、ICTを活用し、授業の目標、流れを提示、展開する。 (2) 課題の目標を明確に提示し、どのように表現するか考えさせる。 (3) 音楽表現に必要な基礎的な知識・読譜力等を身につけられるよう、ワークシートを活用し、自ら考え、書き、発表や話し合いの機会を多くする。また、ICTを活用する。

3 授業改善推進プランの評価（成果の確認）	
(1) 観点別の評価における学期ごとの比較	
(2) 歌唱・器楽の実技試験、定期テスト、ワークシートの活用	
(3) 授業における生徒の様子（発言、授業の取り組み、提出物、等）	

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1)意欲的に学習に取り組むことができる。 (2)イメージしたものを表現するための、表現方法の幅が狭い。
	指導面	(1)色彩・レタリング・彫塑などの基礎習得のための教材を工夫し改良する。 (2)多様な表現技法を紹介しながら、表現意図に応じた指導を工夫する。
2年	学習面	(1)意欲的に学習に取り組むことができる。全体的に集中力も高い。 (2)表現意図に応じた創意工夫に、主体的に取り組む姿勢を身に付けさせたい。
	指導面	(1)多様な技法を紹介し、表現の幅を広げることができるような手だてを工夫する。 (2)表現活動に対する苦手意識を持つ生徒への指導や支援を行う。
3年	学習面	(1)全体的な集中力も高く、意欲的に学習に取り組むことができる。 (2)表現活動に対する興味によって、制作進度に個人差がある。
	指導面	(1)技法指導を工夫し、表現活動を深めていくことができるようにする。 (2)表現活動に対する苦手意識をもつ生徒への指導や支援を行う。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1)色彩・レタリング・彫塑などの基礎を習得できるように指導する。 (2)教科書や資料集に掲載されている作品を鑑賞し、用具の使い方の工夫に気づかせながら制作に取り組ませる。
	指導面	(1)作品制作を通して基礎的な学習に取り組ませる。 (2)教科書、資料集、プリント等の教材を活用しながら基礎的学習を行わせる。 (3)苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。
2年	学習面	(1)課題内容・作業内容の理解と目標を毎時間把握して、時間内に完成できるように制作に取り組ませる。 (2)参考作品を活用し、よりよいアイデアや表現の工夫に気付かせる。
	指導面	(1)多様な表現技法を用いた参考作品を鑑賞し、美術的な制作意欲を高める。 (2)苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。
3年	学習面	(1)多様な表現技法を用いた参考作品を鑑賞し、創意工夫のある表現を目指す。 (2)個々の表現意図に応じた、アドバイスや指導方法を工夫する。
	指導面	(1)多様な表現技法を紹介することで、美術的な制作意欲を高める。 (2)苦手意識のある生徒には、スモールステップを通して指導を行う。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)	
(1)作品やプリントによる目標達成度の確認。	
(2)定期考査(実技含)における、理解度(意欲)の評価。鑑賞プリント・制作における感想等。	
(3)プリントを活用した生徒による授業評価。	

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1) 体力要素の投力と全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 心身の発達と心の健康について日常生活と関連付けて考えることが課題である。 (3) 自分で考える力、各場面における状況判断に課題がある。
	指導面	(1) 準備運動の中で基礎体力作りのトレーニング種目を1年間通して指導している。 (2) 課題に応じた学習場面を複数用意し、課題解決に取り組ませている。 (3) 授業のねらいを明確化するために、ホワイトボード等を活用して授業展開を図っている。
2年	学習面	(1) 体力要素の投力と全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 健康と環境、傷害の防止について日常生活と関連づけて考えることが課題である。 (3) 言語活動を通して、自己や他者の運動課題を見つけ出し解決していく点に課題がある。
	指導面	(1) 準備運動の中で課題に適した補強運動を実施するように指導している。 (2) 授業のねらいを明確にし、理解を促しながら自ら問題を解決できるように指導している。 (3) T・Tの利点を活かし個別指導・習熟度別指導を取り入れて授業展開を図っている。
3年	学習面	(1) 体力要素の投力と全身持久力の向上を図る必要がある。 (2) 健康な生活と疾病の予防について日常生活と関連づけて考えることが課題である。 (3) 言語活動を通して、自己や他者の運動課題を見つけ出し解決していく学びの姿がある。
	指導面	(1) 各単元において課題に応じた運動動作を意識するように言葉かけを行う。 (2) 自らの健康・安全の課題に対して適切に対処し、管理していく判断力を養う。 (3) 生徒同士で学び合い、切磋琢磨する環境づくりに努めている。

2 授業改善推進プラン		
1年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上が図れるように意識して取り組む態度を身に付ける。 (2) 成功体験を増やし、楽しさを感じながら運動に取り組む態度を身に付ける。 (3) 体育ノートを有効活用し、振り返りや学びの機会を増やして言語活動の充実化を図る。
	指導面	(1) 年間を通して、補強運動や一校一取組(持久走)の中で課題のある体力要素に対し克服を図る。 (2) ICTを用いて、映像資料の提示などを行い、生徒が具体的なイメージをもって課題に取り組むことができるようにする。 (3) スモールステップの課題を設定し、運動が苦手な生徒も積極的に取り組む授業展開を行う。
2年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上が図れるように意識して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、達成できるようにする。 (3) グループ活動で話し合いの場を設定し、他者との違いや自己の考えを振り返るようにする。
	指導面	(1) 年間を通して、補強運動や一校一取組(持久走)の中で課題のある体力要素に対し克服を図る。 (2) 個々の課題を明確にし、技術の向上を図れるように学習プリントを有効活用して解決を図る。 (3) スモールステップの授業展開から、習熟度に合わせて授業展開を行っていく。
3年	学習面	(1) 自己の体力要素の課題を理解し、向上できる様に仲間と切磋琢磨して取り組む態度を身に付ける。 (2) 発達段階や日常生活における個々に応じた課題を設定し、解決が図れるように学習する。 (3) グループ活動を通して、思考力・判断力・言語力が向上できるように学習する。
	指導面	(1) 視聴覚機材やICTを利用した授業展開を行い、視覚による運動の構造を理解できる指導を行う。 (2) 体育・保健の両分野の知識・判断力を向上するために、理解しやすい言語指導を行う。 (3) グループ活動を通して、自分たちに適した練習方法や、工夫する態度を身に付ける指導を行う。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)		
(1) 体育ノートや学習プリントの内容から毎時間ごとの評価と単元全体における変容を見る。		
(2) 定期的な技能評価を行う。		
(3) 1つの単元終了時に単元テストを実施し、知識や思考・判断の評価を行う。		

1 日常の学習状況・課題

1年	学習面	(1)学習の振り返りや言語化できる課題に積極的に取り組む生徒が多い。 (2)意欲的に実習や作業に取り組むことができている。また、集中して実習に取り組む生徒が多い。 (3)ものづくりなどの実体験が乏しく、課題解決までの見通しをもって取り組むことが難しい生徒もいる。
	指導面	(1)クロームブックやモニターなど、視聴覚教材を使用して学習・確認できるような工夫を行っている。 (2)基礎的な学力や既習事項の定着が課題である。 (3)実習中、個に応じた指導を行っているが、作業が遅い生徒が出てしまう。
2年	学習面	(1)活動中心ではあるが、学習の振り返りや言語化できる課題に積極的に取り組む生徒が多い。 (2)意欲的に実習や作業に取り組むことができている。また、集中して実習に取り組む生徒が多い。 (3)ものづくりの経験が乏しく、課題解決までの見通しをもって取り組むことが難しい生徒もいる。
	指導面	(1)クロームブックやモニターなど、視聴覚教材を使用して学習・確認できるような工夫を行っている。 (2)自分の考えを説明するための表現力を身に付けさせる必要がある。 (3)作業中、個に応じた指導を行っているが、作業が遅い生徒が出てしまう。
3年	学習面	(1)授業ごとの学習目標を理解したうえで、課題に取り組むことができる生徒が多い。 (2)基礎的な学力や既習事項の定着が課題である。 (3)ものづくりの経験が乏しく、課題解決までの見通しをもって取り組むことが難しい生徒もいる。
	指導面	(1)限られた時間の中でテキストなどを活用することで、基礎・基本事項の学習定着を図っている。 (2)クロームブックやモニターなど、視聴覚教材を使用して学習・確認できるような工夫を行っている。 (3)個に応じた指導を行い、実習作業がわかりやすいよう対応を行っているが、時間がかかる生徒もいる。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	(1)個に応じた指導をテキスト、ワークシート、ICT活用などで充実させる。 (2)作業の時間を確保できるよう、導入や教材の工夫を行う。 (3)適切な題材を選択し、毎時間の到達目標をホワイトボードに明確に記し、見通しをもたせる。 (4)夏休みに、生活体験を増やすような宿題を出す。
	指導面	(1)理解を促せる授業プリントなどを作成し、生徒の課題に合わせて改善や修正を行うなど工夫を行う。 (2)作業手順の画像表示など視聴覚機器を活用し、生徒が理解しやすいように工夫する。 (3)小テスト、学習のまとめ、作品状況などによる学習定着状況の把握し、その生徒に合った課題設定を行うようにする。
2年	学習面	(1)個に応じた指導をテキスト、ワークシート、ICT活用などで充実させる。 (2)作業の時間を確保できるよう、導入や教材の工夫を行う。 (3)適切な題材を選択し、毎時間の到達目標をホワイトボードに明確に記し、見通しをもたせる。 (4)夏休みに、生活体験を増やせるような課題を出す。
	指導面	(1)理解を促せる授業プリントなどを作成し、生徒の課題に合わせて改善や修正を行い、さらなる工夫をする。 (2)作業手順の画像表示など視聴覚機器を活用し、生徒が理解しやすいように工夫する。 (3)中間評価(小テスト、学習のまとめ、作品状況など)による学習定着状況の把握し、その生徒に合った課題設定を行うようにする。
3年	学習面	(1)1時間ごとの到達目標をホワイトボードの活用などで明確にし、集中して作業できるようにしていく。 (2)個に応じた指導をテキスト、ワークシート、ICT活用などで充実させる。 (3)家庭での課題を出し、生活体験を増やしていく。
	指導面	(1)授業プリント・学習ノート等を活用し、短時間での理解を深める工夫を行う。 (2)モニターなどの視聴覚教材や学習者用端末(クロームブック)を活用して、生徒が理解して作業できる工夫をしていく。 (3)小テスト、学習のまとめ、作品状況などによる学習定着状況の把握し、個別に指導を行えるようにする。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

・小テスト、学習のまとめ、レポート、作品状況などで生徒の学習の状況を確認する。

授業改善推進プラン 教科名:英語科 小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題

一年	学習面	多くの生徒が、意欲的に授業での様々な活動に取り組んでいる。苦手意識をもっている生徒もいるが、多くの生徒が授業を楽しいと答えている。 (1) 聞くこと:英語での簡単な指示や、教科書等の簡単な聞き取りはできる。リスニング能力は全体的に高いが、英文の数が多かったり少し複雑になったりと難しさを感じる生徒もいる。 (2) 読むこと:大まかに読み取ることはできる。代名詞の表す語や英文の流れをつかむなどを読み取ることが難しい生徒もいる。 (3) 話すこと:ペアワークに、意欲的に取り組んでいる。事前に練習した内容や予め用意した内容は答えることができるが、即興での回答やプラス1文で答えることに課題がある。 (4) 書くこと:話すことのできる英文を、書くときになるとできない生徒もいる。英単語のスペリングを覚えることや文構造の理解に課題がある生徒が少なくない。
	指導面	視聴覚機器、デジタル教科書(テキスト)を用いながら、生徒にとって視覚的にイメージしやすく、関心が持てるような指導を心がけている。また、コミュニケーション活動を中心に学習者用端末(クロームブック)も活用している。 (1) 授業内の指示や、文法の説明以外ではなるべく英語で行うように心がけている。また、教科書本文の内容を大まかに聞き取る活動を行っている。 (2) ②教科書本文の内容を、用意した設問を通して読み取る活動を行っている。また、ペアでの話し合いでは答えを確認し合ったり、疑問点の解決等を行ったりしている。 (3) ③毎時間ペアワークで話す活動を設けている。導入時にはドリルを中心に、復習時にはコミュニケーション的な内容で行っている。 (4) ④話すことから書くことにスムーズにつなげていけるように、ペアワークで話したことを書く時間を設けているが、ほかの3技能に比べて、かけている時間は多くはない。
二年	学習面	多くの生徒が、意欲的に授業での様々な活動に取り組んでいる。発言も積極的に行う生徒も多数いる。 (1) 聞くこと:絵や写真等の視覚的資料があれば容易に聞き取れる生徒も多い。しかし、内容が長くなると話の全体を把握し状況から判断して聞き取ることが苦手な生徒は少なくない。 (2) 読むこと:多少長い文であっても、読み方のヒントや設問の方法を工夫すれば読み取れる。また、複文のように1文が長くなると、より難しさを感じる生徒も多い。 (3) 話すこと:ペアワークに、意欲的に取り組んでいる。ドリル要素のある会話練習は比較的容易である。その場にあった会話を継続したり、即興であるテーマについて話すことは課題である。 (4) 書くこと:ある程度まとまりのある英文を書くことができていく。書ける量や文の種類も増えてきたが、正確に英文を書くことは昨年同様に課題である。
	指導面	視聴覚機器を用いながら、生徒にとって視覚的にイメージしやすくわかりやすく、また関心が持てるような指導を心がけている。少人数の特性を活かし、個別に指導しながら基礎・基本の定着を図る。 (1) 授業内での教師の英語使用で聞くことに慣れさせる。また、教科書本文の内容を聞き取る活動を行うことで、概要や詳細な情報を聞き取ることに慣れさせていく。 (2) 教科書のReadを利用し、長文を読む練習と問題の答え方の練習をしたりする活動を継続的にしている。 (3) ペアワークやグループワークを多く取り入れ、教え合いながら、アイデアを共有し、使える表現を増やしていけるようにしている。 (4) まずは単語や基礎的な文の定着を図るために、粘り強く正しく書く練習をするように促す。また、既習の文構造や表現を使った英文を書く課題を設けながら、よくある間違いを授業で共有し、まとまりのある内容の文章を正確に英文を書く力を付けられるように指導している。
三年生	学習面	多くの生徒が学習意欲が高く、授業に集中しペアワーク等にも和やかに取り組んでいる。 (1) 聞くこと:1つの箇所を聞き取って答えを導き出す問題はよく聞き取れるが、まとまりのある文章の中で複数の箇所にあたって情報を聞き取る問題が十分に聞き取れないことに課題がある。 (2) 読むこと:昨年に比べ、ある程度の長さの文章を読み取り、答える力がついてきた。リスニングと同様に1文が長くなったり文章全体の流れから読み取ったりすることは課題がある。入試に向けて読解力と読むスピードの向上を図りたい。 (3) 話すこと:ペアでの会話や発表に意欲的に取り組んでいる。スピーチなど予め準備して発表することはよくできるが、即興での発表や会話や、やりとりに応じて自分から質問することに課題がある。 (4) 書くこと:英文を書くことに対して、苦手意識はあまり見られない。書ける量や文の種類も増えてきたが、接続詞や副詞などを使用してまとまりのある英文を正確に書くことは昨年同様に課題である。
	指導面	ICTを活用しながら、生徒にとって分かりやすく、関心をもてるような指導を心がけている。 (1) 授業内での教師の英語使用で英語を聞く習慣を付けさせながら、教科書本文の内容を聞き取る活動を行うことで、必要な情報や全体を聞き取ることに慣れさせる。 (2) 帯活動として毎授業100語程度の英文を読んだり、教科書のReadingを利用し、必要な情報や概要など読み方の練習と問題の答え方の練習をしたりする活動を継続的にしている。 (3) ペアワークやグループワークを多く取り入れ、教え合いながら、アイデアを共有し、使える表現を増やすようにしている。 (4) 日頃は、2・3文程度の短い英文を話してから書く活動を行っている。その際、ロイノート等でも表現や、まとまった英文を書く活動を通してよくある間違い等も共有し、正確に英文を書く力を付けられるように指導している。

2 授業改善推進プラン

一年	学習	関心をもてるような視聴覚機器の利用とワークシート・板書の工夫、リフレクションシートの活用で、英語が苦手な生徒も苦手意識なく取り組み始めるような授業づくりに努める。 (1) 聞くこと:教科書本文やリスニング教材の内容の聞き取り、教師やクラスメイトの話に注意深く耳を傾けたりすることを通して、必要な情報を聞き取る力を身に付ける。 (2) 読むこと:大まかに読むことのほか、今後増えていく英文量に対応するため、代名詞の示す内容や前置詞など細かい部分も確認する。 (3) 話すこと:Q&Aのペア活動で、質問に正しく答えることに加え、プラス1文の表現をペアやクラスで共有し、会話の幅を広げていく。 (4) 書くこと:小テストや復習でつづりの定着を図り、正しく書けるようにする。簡単な英語で事実や考えをまとまりのある英文で書く練習を重ね、表現力を伸ばす。
	指導	基礎・基本の定着を図るとともに、4技能の関連した活動を行っていく。十分なインプット量(8割)を保ち、アウトプットの時間も確保していく。また、コミュニケーション活動や意見の共有などの他、個人の振り返りや記録を残すなど学習者用端末(クロームブック)を効果的に活用する。 (1) 聞くこと:教科書の本文内容聞き取りなど、英文を聞く機会を多くつくり、また音読練習で英語らしい音のつながり等も指導していく。 (2) 読むこと:教科書本文の読みとりの設問をさらに工夫するとともに、新出語の提示の際には、コロケーションにも意識させて指導する。 (3) 話すこと:正しく質問に答えることができるように、帯活動で繰り返し学習し、定着を図る。また発音やイントネーションを意識して話すように指導する。 (4) 書くこと:定期的に英文を書く練習をする時間を設け、教科書の文を真似したり、少し変えたりしながら正しく書く練習を徹底的に行う。
二年	学習	関心をもてるような視聴覚機器の利用とワークシートの工夫を通して、英語が苦手な生徒も苦手意識なく取り組み始めるような授業づくりに努める。 (1) 聞くこと:日常的な話題の会話や説明、リテリングをを通して、簡単な英文を聞き取れる力を身に付ける。 (2) 読むこと:読み取り活動では必要な情報、概要、要点を読み取れるよう、教科書本文の読みとりの活動を続けていく。 (3) 話すこと:質問に正しく答えることに加え、プラス1文の表現をペアやクラスで共有し、会話の幅を広げていく。 (4) 書くこと:場面にあった英文を適切な表現を選びながら、自身の意見を取り入れた、まとまりのある英文を書く練習をする。
	指導	基礎・基本の定着をはかるとともに、4技能の関連した活動を行っていく。 (1) 聞くこと:教科書の本文内容聞き取りなど英文を聞く機会を多くつくり、またリフレーミング指導や、音読練習で英語らしい音のつながり等も指導していく。 (2) 読むこと:教科書本文の読みとりの設問をさらに工夫するとともに、新出語の提示の際には、コロケーションにも意識させて指導する。 (3) 話すこと:正しく質問に答えることができるように、帯活動での繰り返し学習やDrillを増やし、定着を図っていく。 (4) 書くこと:場面にあった適切な表現を書くため、繰り返し適宜既習の英文を書く練習を取り入れる。
三年	学習	ICT等を効果的に用いて生徒の興味・関心を引き出し、苦手な生徒も取り組みやすい授業づくりに努める。 (1) 聞くこと:話されている内容を理解し、必要な情報や概要など正しく聞き取り答える力を伸ばす。 (2) 読むこと:文章を読むことを楽しみつつ、文書の概要や必要な情報を正しく読み取る力を伸ばす。また、繰り返し音読練習を行い、文章を読むスピードの向上を図る。 (3) 話すこと:聞かれた内容に対して答えるだけでなく、自分の考えや相手への質問なども付け加えて会話に広がりをもてるように練習する。新出語の提示にはコロケーションにも意識させて指導する。また、初見の絵や映像等を見て、それについて瞬時に英語で描写したり、説明したりする練習を増やす。 (4) 書くこと:書きたい内容を自分のわかる言葉や知っている表現を使って、正しく伝えられるように練習をする。また、接続詞や副詞等を適切に使用できるように指導する。
	指導	同じ内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って練習し、文法や語彙の習得を図る。また、様々な場面で中間評価を行い、主体的で対話的な深い学びにつなげる。 (1) リスニング問題の練習回数を増やし、入試に向けて様々なタイプの問題を練習し、正しく答える力をつける。 (2) 2学期以降、文章を読む活動を増やし、様々なタイプの文章を用意する。要点を掴み、正しく答える練習を行う。 (3) QAやチャットなど、間違いを気にせず自己表現ができる活動を取り入れ、生徒間で教え合う時間を増やす。新出語の提示にはコロケーションにも意識させて指導する。 (4) 文法や語彙を「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って練習し、即興で考えて正しい英文で表現できる力を伸ばしていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1)定期テスト、休み明けテスト、小テスト、スピーキングテスト、発表活動、スペリングコンテスト、復習確認テスト
- (2)授業中に扱ったワークシート、単元終了時の自己評価、定期テスト後の振り返り

授業改善推進プラン

教科名: 特別の教科 道徳

小平市立花小金井南中学校

1 日常の学習状況・課題		
1年	学習面	(1)教科書を中心とし、授業を行っている。興味・関心をもって授業に取り組んでいる生徒が多い。
		(2)様々な道徳的に価値について、教材を通して考えを深めていくことに課題がある。
		(3)道徳的価値を高めていくために、日常生活の課題解決をはじめ、すべての教育活動を通して道徳的価値を考えさせていくことが必要である。
	指導面	(1)発問を精選し、生徒の考え語り合う時間を確保している。 (2)自主、自立、自由と責任・公正、公平、社会正義など様々な価値項目について考えさせ、いじめをしない資質、また物事の善悪などの価値観を育てている。
2年	学習面	(1)教科書等を中心とし、授業を行っている。自分自身と向き合いよく考えている生徒が多い。
		(2)ペアワークや小グループでは活発に話し合えるが学級全体で自分の考えを積極的に伝え合うことに課題がある。
		(3)道徳的価値を高めていくために、日常生活の課題解決をはじめ、すべての教育活動を通して道徳的価値を考えさせていくことが必要である。
	指導面	(1)発問を精選し、生徒の考え語り合う時間を確保している。 (2)自主、自立、自由と責任・公正、公平、社会正義など様々な価値項目について考えさせ、いじめをしない資質、また物事の善悪などの価値観を育てている。
3年	学習面	(1)週(1)回の道徳の時間に教科書等を用いて授業を行っている。自分と向き合いよく考えている生徒が多い。
		(2)ペアワークや小グループでは活発に話し合えるが学級全体で自分の考えを積極的に伝え合うことに課題がある。
		(3)道徳的価値を高めていくために、日常生活の課題解決をはじめ、すべての教育活動を通して道徳的価値を考えさせていくことが必要である。
	指導面	(1)発問を精選し、生徒の考え語り合う時間を確保している。 (2)自主、自立、自由と責任・公正、公平、社会正義など様々な価値項目について考えさせ、いじめ防止に向けた豊かな心、物事の善悪を判断する力を育てている。

2 授業改善推進プラン

1年	学習面	(1)道徳の時間に教科書を中心とし、様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を通じて主体的に学習させる。
		(2)道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。
		(3)日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は今後も適時考えさせ、道徳的価値を考えさせる活動を、今後もすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	(1)グループごとの話し合い活動を取り入れ、主体的、対話的な授業を心がける。 (2)週(1)回の道徳の時間を中心に(通して)、自分の役割と責任を自覚させ、集団生活の中で他者との関わりを考える中で自分のあり方をみつめていく。 (3)日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時共有し合い、考えさせ、課題を考えさせる活動を、引き続き、すべての教育活動を通して行い、道徳的価値観を育成していく。
2年	学習面	(1)道徳の時間に教科書を中心とし、様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を通じて主体的に学習させる。
		(2)道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周りと協力して物事に取り組む資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。
		(3)日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は今後も適時考えさせ、道徳的価値を考えさせる活動を、これからすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	(1)グループごとの話し合い活動を取り入れ、主体的、対話的な授業を心がける。互いに意見を交わし多面的・多角的に考えられるようにする。 (2)週(1)回の道徳の時間に教科書を中心に、副教材も用い、自分の役割と責任や他者との関わり方を考えさせ、集団生活の中で協力・団結することの重要性を考えさせていく。 (3)日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、よりよい解決法を考えさせる活動を、これからも、すべての教育活動を通して行っていく。
3年	学習面	(1)道徳の時間に教科書を中心とし、様々な資料を用いて授業を行い、話し合い活動を通じて主体的に学習させる。
		(2)道徳の時間で、親切、寛容、誠実、節度、規律、公平公正、正義など、いじめをしない、周りと協力して最善の解決法を考える資質を育て、すべての教育活動において道徳的実践力も育成する。
		(3)日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題のみならず、社会的な問題も適時考えさせ、道徳的価値を考えさせる活動を、これからすべての教育活動を通して行っていく。
	指導面	(1)グループごとの話し合い活動を取り入れ、主体的、対話的な授業を心がける。互いに意見を交わし多面的・多角的に考えられるようにする。 (2)生徒が興味や問題意識をもつことができるような身近な社会問題を取り上げ、主体的な学びができるような資料を用意する。 (3)日々の生活で起こった、クラスや個人の生活指導上の問題は適時考えさせ、最善の解決法を考えさせる活動を、これからも、すべての教育活動を通して行っていく。

3 授業改善推進プランの評価(成果の確認)

- (1)道徳授業地区公開講座などで教員による相互や保護者地域の方に授業評価をしていただき、検証する。
- (2)すべての教育活動を通しての教師による、クラスや個人の観察、及び生徒自身による自己評価を比較する。